

「フアニーたい焼きト

ム57 里芋の煮っこ

ろがし」

脚本

第一幕：発明の朝

シーン：東京・下町の商店街

朝

朝日が差し込む商店街。シャッターが次々と開き、商店街が活気づいていく。その中でも一際目立つ店がある。赤と白の縞模様の日除けに「たい焼きトム」と書かれた看板が掲げられている。店の前には小さな黒板があり、「本日のたい焼き…???」と書かれている。

シーン② たい焼きトム店内・朝

店内は伝統的な和の要素と現代的なデザインが融合した空間。壁には世界各国のたい焼きの写真や、トムが発明したユニークなたい焼きの写真が飾られている。カウンター奥では、トム（32歳、アメリカ人、ブロンドの髪をポニーテールに結んでいる）が何かを試作している。

トム

（英語訛りの日本語で、歌いながら）
「『たい焼き作ろう、ファニーなたい焼き作ろう』」

ドアが開き、魚住（22歳、日本人女性、黒髪のショートカット、真面目そうな眼鏡をかけている）が制服を手に入ってくる。

魚住

「おはようございます、トムさん。
今日も早いですね。」

トム

(振り向き、満面の笑みで)

「やあ、魚住ちゃん！おはよう！
今日はビッグな日だ！新しいたい
焼き、考えたんだ！」

魚住

(少し不安げに)

「また、変わったの考えたんです
か…？前回の『納豆チーズたい焼
き』はお客さんが半分で逃げまし
たよ…」

トム

(全く気にせず、むしろ嬉しそうに)

「それがエンターテイメントだ
よ！びっくりしたけど、最後は美

味しかったって言ってくれたじゃない！」

トムはカウンターの下から大きな袋を取り出す。

トム

「さあ、見て！今日の主役だよ！」

袋を開けると、中から里芋がごろごろと出てくる。

魚住

「え？里芋…ですか？」

トム

(興奮して)

「そう！昨日テレビで見たんだ。

『里芋の煮っころがし』って料理！すごく美味しそうだったから、これをたい焼きにしたら最高だと思っただ！」

魚住

(頭を抱える)

「里芋の煮ところがし…たい焼き…？」

トム

「そう！ Funny Taiyaki Tom 57:『里芋の煮ところがし』！最高じゃない？」

魚住

(呆れながらも諦めの表情で)

「どうやって作るんですか…？」

トム

「簡単さ！まず里芋を煮て、醤油と砂糖とみりんで味付けして…それをたい焼きの中に入れるだけ！」

魚住

「でも、水分が多すぎると生地が…」

トム

（魚住の言葉を遮って）

「大丈夫、大丈夫！昨日から何回も試作したんだ。ほら、見て！」

トムはオーブンから焼き上がったたい焼きを取り出す。見た目は普通のたい焼きだが、少し大きめ。

トム

「さあ、試食してみて！」

魚住は恐る恐る一口かじる。

魚住

（驚いた表情で）

「これ…意外と…美味しいですね。

外はカリカリで中はホクホク…和

風の味付けがたい焼きの生地と合
ってる…」

トム

（大喜び）

「でしょ！でしょ！これは絶対に
売れるよ！」

魚住

（まだ不安そうに）

「でも…お客さんが受け入れてく
れるかな…」

トム

「大丈夫！信じて！さあ、準備す
るよ！」

トムと魚住は店の準備を始める。

外の黒板に「本日のたい焼き…里
芋の煮っころがし」と書く。

第二幕：開店と最初の反応

シーン③：たい焼きトム店前・午

前 10時

店の前に「只今開店中」の看板が出ています。黒板を見て足を止める
通行人たち。

通行人 ▶

「里芋…の煮っころがし…？たい
焼きの中に？」

通行人 ☹

「また始まったよ、あのアメリカ
人の奇想天外なたい焼き…」

通行人 ○

「前回の納豆チーズは意外と美味
しかったけどね。今回はどうか
な…」

少しずつ店の前に人が集まり始め
る。

シーン④ たい焼きトム店内・午

前 10時 30分

トムが元気よくだいたい焼き器で里芋の煮っころがしたい焼きを焼いている。魚住は不安そうに接客している。

魚住

「いらっしやいませ！本日の『たい焼きトム』は里芋の煮っころがしたい焼きです。」

お客①（中年女性）

「まあ、面白そう！一匹ください。」

魚住

「ありがとうございます。少々お待ちください。」

魚住はトムにオーダーを伝える。

トムは踊るように楽しそうにたい焼きを焼く。

トム

(英語で)

「One Satouimo Taiyaki coming up!」

焼き上がったたい焼きを紙袋に入れ、お客に渡す。

トム

「はい、どうぞ！今日の特別たい焼き！」

お客は恐る恐る一口かじる。表情がみるみる変わる。

お客

「わぁ！これ、意外と美味しい！ホクホクした里芋と、ちよつと甘

辛い煮っころがしの味付けが、たい焼きの生地と合うわ！」

トム

(喜んで)

「でしょ？ でしょ？ Japanese comfort food meets taiyaki!」

その様子を見ていた他のお客も次々と注文し始める。

お客② (高校生)

「やっぱりたい焼きトムは面白いよね！ 僕も一匹ください！」

お客③ (サラリーマン)

「話のネタにもなるし、一匹もらおうかな。」

店内は徐々に活気づいてくる。

シーン⑤: たい焼きトム店内・正午

店内は大混雑。たい焼きを焼くトムは汗だくだが、元気いっぱい。魚住も忙しく接客している。

魚住

(驚いた様子で)

「トムさん！こんなに売れるとは思いませんでした！」

トム

(誇らしげに)

「言っただろう？信じてって！みんな新しいものが好きなんだ！」

そこへ、ブロガーらしき女性(20代後半)がカメラを持って入ってくる。

ブロガー

「こんにちは！Foodie Tokyoのミキです。噂の里芋の煮っころがし

たい焼き、撮影させてもらってもいいですか？」

トム

(大喜び)

「もちろん！ Welcome to Funny

Taiyaki Tom!」

ブロガーは熱心に写真を撮り、たい焼きを食べ、トムにインタビューを始める。

ブロガー

「なぜ里芋の煮ところがしをたい焼きに入れようと思ったんですか？」

トム

「僕はね、たい焼きのポテンシャルは無限だと思ってるんだ！ 和食の美味しさをたい焼きで表現したかったんだよ！」

魚住

(小声で)

「単にテレビで見て思いついただけなのに…」

トムは魚住の言葉を聞いていないふりをして、熱く語り続ける。

トム

「たい焼きは日本の魂だよ！それにアメリカなエンターテイメント精神をプラスしたいんだ！」

ブロガーは熱心にメモを取っている。

第三幕：危機

シーン⑨：たい焼きトム店内・午

後2時

依然として店は賑わっているが、少し異変が起きている。お客の中

に不満そうな顔をしている人が出てきた。

お客 ▶ (年配の男性)

(不満そうに)

「これ、生地の中が生焼けじゃないか？」

魚住

(慌てて)

「申し訳ございません！すぐに新しいものをお作りします！」

トムのところへ駆け寄る魚住。

魚住

「トムさん、ちよつと焼き方が均一じゃないみたいです。クレームが来ています。」

トム

(まだ楽観的に)

「大丈夫、大丈夫！少し調整するだけさ！」

しかし、次々とクレームが増えていく。

お客 5 (OL)

「この里芋、ちよつと固くないですか？」

お客 9 (大学生)

「中身がちよつと冷たいかも…」

魚住

(焦って)

「トムさん、どうしましょう…」

トム

(少し焦りながらも)

「たくさん作りすぎて、ちゃんと煮られてない里芋を使っちゃったのかも…」

さらに状況は悪化する。SNSでの投稿が始まっている。

シーン④ たい焼きトム店内・午

後③時

店内の雰囲気は少し悪くなっている。トムはまだ明るく振る舞おうとしているが、魚住は明らかに焦っている。

魚住

(スマホを見て)

「トムさん、大変です！SNSで『たい焼きトムの里芋たい焼きは当たり外れが激しい』って書かれてます！」

トム

(初めて深刻な表情を見せる)

「まずいな…今日せつかく人氣が出たのに…」

魚住

「どうしましょう…」

トム

(急に決意を固めたように)

「もう一度、最初から作り直そう！今度はもつと丁寧に！」

トムは里芋を一から煮始める。魚住は待っているお客に謝罪して回る。

魚住

「申し訳ございません。只今、新しい煮っころがしを準備中です。少々お時間をいただきますが、よろしく願います。」

店内の雰囲気は微妙だが、多くのお客はまだ期待して待っている。

第四幕：復活

シーン∞たい焼きトム店内・午
後▶時

トムは真剣な表情で里芋を煮ている。今度は魚住も手伝っている。

トム

「魚住ちゃん、ありがとう。一人じゃ大変だった。」

魚住

(珍しく笑顔で)

「当たり前です。私も『たい焼きトム』の一員ですから。」

トム

(感動して)

「魚住ちゃん…！」

魚住

(照れて)

「それより、今度こそ完璧なたい焼きを作りましょう！」

二人は協力して、丁寧に里芋を煮て、適切な大きさに切り、味付けを調整する。

シーン⑤：たい焼きトム店内・午後⑤時

新しく作り直したたい焼きが完成。待っていたお客に提供し始める。

トム

「お待たせしました！新しい『里芋の煮っころがしたい焼き』です！」

お客たちは期待と不安が入り混じった表情でたい焼きを受け取る。

お客①（若い女性）

（一口食べて）

「わあ！すごく美味しい！前より全然いいです！」

お客∞（年配の女性）

「ホクホクしてて、お味も丁度いいわ！」

トム

（ほっとして）

「よかった…！」

店内に再び活気が戻る。SNSでの投稿も「たい焼きトムが復活！」「新しいたい焼きは絶品！」と好転している。

シーン10：たい焼きトム店内

午後9時

テレビ局のクルーが取材に訪れる。

レポーター

「こんにちは！話題の『たい焼き

トム』さんにやってきました！今日は特別なたい焼きが食べられるとか？」

トム

（カメラに向かって堂々と）

「はい！今日の『フアニーたい焼きトム』は『里芋の煮ところがし』です！和食の美味しさとたい焼きが融合した新感覚スイーツです！」

レポーターがたい焼きを試食する。

レポーター

「うわ！これは斬新！でも不思議と美味しい！和と洋の絶妙なバランスですね！」

カメラが店内の様子や行列を映し出す。

トム

(魚住に小声で)

「これで大丈夫だね！」

魚住

(微笑んで)

「はい。でも、次はもう少し計画的に作りましょうね。」

トム

(笑って)

「約束するよ！…たぶん！」

魚住はため息をつきながらも、微笑む。

第五幕：大成功と次なる挑戦

シーン二：たい焼きトム店内・閉

店間際

店内は片付けが進んでいる。この日の「里芋の煮っころがしたい焼

き」は完売。トムと魚住は疲れながらも満足した表情。

トム

「今日は大成功だったね！危機もあつたけど、乗り越えたよ！」

魚住

「はい。結局、お客さんの評判も良かったですし。」

トムのスマホが鳴る。

トム

「見て！SNSでシェアされまくってる！『#たい焼きトム』『#里芋たい焼き』がトレンド入りしてる！」

魚住

(驚く)

「本当ですね！すごい…！」

二人は達成感に浸りながら、最後の片付けをしている。

魚住

「それにしても、トムさんのたい焼きへの情熱はすごいですね。」

トム

(真剣な表情で)

「たい焼きは単なる食べ物じゃないんだ。人々に驚きと喜びを与えるエンターテイメントなんだよ。」

魚住

(感心して)

「そんな風に考えているんですね…」

トム

「もちろん！だから次は…」

トムは何かを思いついたように目を輝かせる。

魚住

(警戒して)

「次…？」

シーン 12: たい焼きトム店内
閉店後

完全に片付いた店内。トムと魚住は明かりを消そうとしている。

トム

(興奮した様子で)

「次は『カレーうどんたい焼き』を作ろうと思うんだ！」

魚住

(絶句して)

「カレーうどん…たい焼き…？」

トム

「そう！うどんをたい焼きの中に入れて、カレー味の餡と一緒に焼くんだけ！どう？斬新でしょ？」

魚住

(頭を抱えて)

「それ、絶対に生地が…水分が…あ、もう…」

トム

(全く気にせず)

「明日から試作開始だ！『ファニーたい焼きトム58…カレーうどん』！最高だね！」

トムは店を出て行く。魚住はため息をつきながらも、少し微笑んでいる。

魚住

(独り言)

「まったく…でも、不思議と楽し
いんですよ、この仕事…」

魚住は最後の明かりを消し、店を
閉める。

シーン 13: たい焼きトム店前、
夜

閉まった店の前に「明日のたい焼
きは？」と書かれた黒板。その下
には「お楽しみに！」と書かれて
いる。カメラが徐々に引いていき、
賑やかな商店街の夜の景色が広が
る。「たい焼きトム」の看板が月
明かりに照らされる。

ナレーション (トム)

「たい焼きの可能性は無限大！明
日も『ファニーたい焼きトム』は
新たな冒険を続けます！」

終幕